

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

**基準 1**      **理念・目的**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0101	大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	(2) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。	A
		(3) 学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。	A
		(4) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性があるものになっていますか。	A
0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	(1) 学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やホームページなど)との記述の齟齬	A
		(2) 教職員、学生、社会に対する刊行物、ホームページ等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等が周知および公表されていますか。 ・構成員(教職員および学生)への周知 ・社会に対しての公表	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証を行い、「どのように(基準)」自己点検していますか。	
0101	大学の基本理念を踏まえ、人文系諸科学と社会系諸科学を架橋する研究科の独自性を明示した上で、各専攻の教育研究上の目的および育成する人間像を明確に設定している[0101a][0102a]。
0102	研究科および各専攻の教育研究上の目的を研究科HPや学生便覧その他の媒体で周知している[0101a][0102a]。
長所・特色 << 箇条書き >>      *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0101	人文系諸科学と社会系諸科学を架橋する研究科の独自性を明示した、教育研究上の目的および育成する人間像の設定[0101a][0102a]。
項目 No.	

課題事項	《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点
項目 No.	特になし。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
0101	大学 HP の「教育研究上の目的」に日本語として不適切な表現（「人文系諸科学と社会系諸科学に架橋をかけて」）が見られたので、適切な表現（「人文系諸科学と社会系諸科学に架橋して」）に改めた。内容自体に変更はない [0101a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と向上・改善方策（到達目標を含む）
	特になし。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.	根拠資料の名称		提出区分
項目 No.	記号		
0101	a	教育研究上の目的 大学院国際人間学研究科 情報公表 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_graduate_global_humanics/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/aim_graduate_global_humanics/</a>	○
0102	a	2019 年度大学院学生便覧（該当箇所 p. 3, p. 16-20）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

**基準 2 内部質保証**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	(4)外部評価（学内のピアレビュー受審を含む）を自己点検・評価に取り入れていますか。	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0203 外部評価を恒常的に取り入れる試みは行っていないが、今年度、ピアレビューを受審する予定である[0203a]。	
長所・特色 << 箇条書き >> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特になし。
項目 No.	
課題事項 << 箇条書き >> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0203	外部評価を恒常的に取り入れる試みの検討[0203b]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

< 改善・向上の進捗状況 >

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
特になし。	

< 今後の改善・向上計画 >

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0203	ピアレビューの結果を受けて、具体的な改善策を検討していく予定である[0203b]。

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0203	a	中部大学 自己点検・評価実施計画	○
0203	b	2020 年度自己点検・評価 改善計画書	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

**基準 4**    **教育課程・学習成果（1）**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	(1) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針（DP）の適切な設定を行い、公表をしていますか。 ・当該学位にふさわしい学習成果の設定 ・学位授与の方針（DP）の設定	A
0402	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	(1) 学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(2) 学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた編成・実施の方針の設定になっていますか。	A
		(3) 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施の方針を社会に対し、公表していますか。	A
		(4) 学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）は適切な関連性となっていますか。 ・「学位授与の方針（DP）」⇔「教育課程の編成・実施の方針（CP）」との整合	A
0403	教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(1) 教育課程の編成・実施の方針（CP）と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2) 教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）	A
		(3) 単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。	A
		(4) 個々の授業科目の内容および方法は適していますか。	A
		(5) 授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	A

0403	教育課程の編成・実施方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	(6) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(7) 学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0401	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの特色を明示した明確な DP を設定し、大学 HP で公表している [0401a]。
0402	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの特色を明示した明確な CP を設定し、大学 HP で公表している [0401a]。
0403	博士前期課程・後期課程とも、専攻ごとの CP に基づいた教育課程を体系的に編成している [0403a]。
0403	学生が研究者あるいは社会人として自立できるよう、丁寧に個別指導している [0403b]。
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0401	専攻ごとの特色を明示した明確な DP の設定 [0401a]。
項目 No. 0402	専攻ごとの特色を明示した明確な CP の設定 [0401a]。
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0403	教員の個別指導状況を各専攻だけでなく、研究科全体で共有する必要がある。
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない 特になし。
---

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0403	教員の個別指導状況を各専攻だけでなく、研究科全体で共有するよう努める。

## 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	記号		
0401	a	3つのポリシー 情報公表 <a href="https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/graduate_list/">https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/graduate_list/</a>	○
0403	a	2019年度大学院学生便覧 (該当箇所 p. 49-58)	○
0403	b	2019年度指導教授一覧	△

提出区分 … ○ : 本シートと一緒に提出する資料    △ : 現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 国際人間学研究科

基準 4 教育課程・学習成果（2）

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	(1) 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。	学部のみ
		(2) シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・ 授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・ 授業内容とシラバスとの整合性の確保	A
		(3) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。	A
		(4) 授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・ 授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。 ・ 履修指導等のガイダンスは適切に実施していますか。 【修士課程、博士課程】 ・ 研究指導計画(研究指導の内容および方法、年間スケジュール)を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。	A
0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(1) シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 ・ シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価	A
		(2) 既修得単位の認定は、明確な定めに基づき適切に行われていますか。 ・ 規程等に基づく単位認定のプロセス	A
		(3) 成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。	A

0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	(4) 卒業・修了要件を明確に定めていますか。	A
		(5) 学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示されていますか。	A
		(6) 学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するためにどのような措置を施していますか。	A
		(7) 学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。	A
		(8) 適切な学位授与を行っていますか。	A

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0404	学生の研究成果を発表する場として「院生の力」を年間2回公開で実施し、各人の研究の進捗状況を確認するとともに、教員や他の学生との質疑応答を通して、自分の研究を客観化する機会としている[0404a]。
0404	学生の研究成果を雑誌Glocal（年2回発行）に掲載し、広く公表している[0404b]。
0405	学位審査の規準や方法は各専攻の内規で明確化し、その運用状況については専攻主任連絡会で点検している[0405a][0405b]。
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0404	研究発表会「院生の力」の開催[0404a]。
項目 No. 0404	国際人間学研究科レポートGlocalの発行[0404b]。
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	特になし。
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

### <改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0405	学位審査の規準や方法について、専攻ごとの特徴を尊重しながら、研究科としての統一性を維持できるよう努めている[0405a][0405b]。

### <今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
	特になし。

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0404	a	2019 年度「院生の力」ポスター	○
0404	b	GLOCAL Vol. 15, 16	○
0405	a	国際人間学研究科学位に関する内規	○
0405	b	2019 年度第 10 回専攻主任連絡会議事録 (0310)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

**基準 4 教育課程・学習成果（3）**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価をしていますか。	(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。 ・学習成果を測るための評価方法や評価指標	B
		(2) 成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ・学習成果に関する情報の把握と共有	学部のみ
		(3) 学習成果を把握および評価するために、どのような方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	C
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上に取り組んでいますか。 ・年度重点目標の設定	C

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。
0406 学会発表や学会誌への論文掲載を成果の把握に利用している[0406a]。
0406 大学院の性格上、学生の日常的な学習成果について共通の測定指標を設定することはむずかしいが、指導教員が個別に把握し、指導を行っている[0406b]。
0406 院生の研究成果発表の機会は確保しているが、アセスメント・テストやルーブリック評価は大学院の性格になじまず実施していないので、これに代わる評価方法の導入は検討の余地がある。

0407 各教員が毎年度初頭に「教育活動重点目標・自己評価シート」を提出して当該年度の重点目標を設定し、これを学部長・学長が点検する。また、年度終わりに同シートに自己評価を記して提出し、これを学部長・学長が点検している。[0407a]	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特になし。
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0406	学習成果の測定方法の検討。
項目 No. 0407	定期的な自己点検・評価の実施[0407a]

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
特になし。	

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0407	専攻主任連絡会において教育課程およびその内容、方法の適切性について定期的な自己点検をおこない、研究科委員会でその状況を報告・周知する。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0406	a	2019 年度中部大学国際学会発表支援申請者一覧	△
0406	b	2019 年度指導教授一覧	△
0407	a	2019 教育活動重点目標・自己評価シート	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織 国際人間学研究科

基準5 学生の受け入れ

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	(1) 学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。	A
		(2) 明示媒体によって、記述に齟齬はありませんか。 ・入試要項とホームページ等の媒体間の記述の統一	A
		(3) 社会に対し公表していますか。	A
		(4) 下記内容を踏まえた入学者受入れの方針(AP) の設定となっていますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	(1) 入学者受入れの方針(AP) と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合	A
		(2) 入学者受入れの方針(AP) に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程の編成・実施の方針(CP) と学生募集方法、入学者選抜方法の連関 ・入学者選抜において透明性を確保するための措置	A
		(3) 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備はなされていますか。	A
		(4) 公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(5) 入学希望者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	(1) 入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・ 入学定員に対する入学者数比率 ・ 編入学定員に対する編入学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率 ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・ 収容定員に対する在籍学生数比率	B
0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っていますか。	(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・ 学部内委員会等において根拠資料に基づいた定期的な検証	A
		(2) 自己点検・評価結果に基づいた改善・向上を行っていますか。 ・ 年度重点目標の設定	A

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0501	博士前期課程・博士後期課程とも、専攻ごとに明確なAPを定め、大学HP等で公表している[0501a]。
0501	毎年5月（学内進学者）・7月・1月に入試説明会を開催し、求める人材像等を詳細に公表している[0501b]。
0502	専攻ごとのAPに従って、公正かつ適切な入学者の受入を実施している[0502a]。
0503	収容定員を満たすべく努力しているが、内部進学希望者数は限られているため、在籍学生数は定員を満たせない状況が続いている[0503a]。
0504	内モンゴルの学術交流協定校から、留学生の選抜・受け入れを実施した [0504a]。
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0504	学術交流協定による内モンゴルからの留学生5名を選抜[0504a]。
項目 No.	
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0503	留学生や社会人も含めた幅広い受け入れの推進[0501b]。
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0504	内モンゴルの学術交流協定校からの留学生5名の受け入れを実施した（新型コロナウイルスの感染拡大の影響で来日が延期となり、2020年9月入学の予定）[0504a]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0504	収容定員を満たせるよう、留学生・社会人の受け入れを一層推進する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0501	a	3つのポリシー 情報公表	○
0501	b	入試説明会ポスター・配布資料	○
0502	a	議事録（2019年度第6回国際人間学研究科委員会，2019年度第9回専攻主任連絡会）	○
0503	a	2019年度入学試験結果（大学院）	○
0504	a	国際人間学研究科委員会議事録（2019年10月23日）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準6 教員・教員組織

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	(1) 大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。	A
		(2) 教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化) ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師または助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(3) 学士課程における教養教育の運営体制を整備していますか。	学部のみ
0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	(1) 教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定	A
		(2) 規程等に従った適切な教員人事(募集、採用、昇任等)を実施していますか。	A
0604	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	(1) FD活動を組織的に実施していますか。	A
		(2) 点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A
0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1) 適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	B
		(2) 自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	B

## 2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0602 専攻ごとに適切な人員を配置している[0602a]。	
0603 募集・採用・昇格とも、内規に従って適正に実施している[0603a]。	
0604 毎年2回、教員の研究発表会をおこない、その要旨をGLOCALに掲載して教員の質向上に努めている[0604a][0604b]。	
0605 教員組織の適切性については、教員の欠員が生じた場合にその都度対応しており、定期的には点検・評価を行っていない。	
長所・特色 <<箇条書き>> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0604	教員研究発表会の開催とGLOCALへの要旨の掲載（年2回）[0604a][0604b]。
項目 No. 0605	2つの学部に跨った研究科であることによる広範な領域・分野の教員配置
課題事項 <<箇条書き>> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0605	退職による欠員を補う適切な教員配置の必要性
項目 No.	

## 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない 特になし。
---

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0605	留学生や社会人が増えつつある現状を踏まえ、多様なニーズに応じた大学院教育を実施するための教員組織を構成するよう努める。

## 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0602	a	教育職員定員・現員表（該当箇所 p. 3-4）	○
0603	a	国際人間学研究科大学院担当資格基準	○
0604	a	2019年度教員研究会ポスター	○
0604	b	GLOCAL Vol. 15（該当箇所 p. 2-5）	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準7	学生支援
-----	------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・正課外教育</li> <li>・留学生等の多様な学生に対する修学支援</li> <li>・障がいのある学生に対する修学支援</li> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> <li>・留年者および休学者の状況把握と対応</li> <li>・退学希望者の状況把握と対応</li> </ul>	A
		(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の相談に応じる体制の整備</li> <li>・ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動</li> <li>・心身の健康維持・増進および安全への取り組み</li> <li>・生活支援面において、方針の目的（安全で安定した学生生活を送るための基盤整備等）の支援</li> </ul>	A
		(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備</li> <li>・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施</li> <li>・キャリア支援講座などの実施</li> </ul>	A
		(6) インターンシップは十分に実施していますか。	C
		(8) 学生の要望に対応した学生支援を適切に実施していますか。 キャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の強化	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0702 学内進学者向けに大学院進学者短期研修（セブ島）を用意し、進学後の学会発表等に備え、英語運用能力の向上をはかっている[0702a] [0702b]。	
0702 留学生に対しては国際センターと連携し、日本語支援プログラム等の支援をおこなっている[0702c]。	
0702 研究科共通科目として、留学生向けに「日本語論文の書き方 I・II」（各2単位・修了要件に含めず）を用意している[0702d]。	
0702 学生による編集委員会にて、研究生を対象とした論集「国際人間学フォーラム」を年1回刊行している[0702e]。	
長所・特色 《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0702	留学生向け「日本語論文の書き方 I・II」の実施
項目 No.	
課題事項 《箇条書き》 *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0702	インターンシップ実施の必要性の検討。
項目 No.	

### 3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない 特になし。	
---	--

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0702	内モンゴルからの留学生については、入学時期が半年ずれたこともあり、国際関係学専攻において受け入れに伴う諸問題に対応する必要がある。

### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0702	a	2019 年度大学院進学者研修募集要項	○
0702	b	2018-2019 年大学院進学者研修参加者名簿	○
0702	c	日本語支援プログラムに関する細則	○
0702	d	2019 年度大学院学生便覧（該当箇所 p. 49, 52, 54, 57）	○
0702	e	国際人間学フォーラム No.16	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

**基準 8 教育研究等環境**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。	A
0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	(1)適切な根拠資料に基づく自己点検・評価を実施していますか。	A
		(2)自己点検・評価結果に基づく改善・向上の取り組みを行っていますか。 ・年度重点目標の設定	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0806 次年度に向けて研究科で必要とされる教育環境整備について専攻主任連絡会、研究科委員会で検討の後、「2020年度教育・研究に係る事業計画と予算の提案について」を提出した[0806a][0806b][0806c]。	
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0806	施設・設備的には十分とは言えないまでも、国際関係学部棟と人文学部棟のそれぞれに共同院生室を設けている。[0806d]。
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 0806	院生の研究環境の更なる充実[0806a][0806b][0806c]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない 特になし。
---

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
0806	院生の研究環境は依然として十分ではないので、さらに充実させる必要がある。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0806	a	2020 年度以降における学部等重点事業計画について	○
0806	b	2019 年度第 3 回専攻主任連絡会議事録	○
0806	c	2019 年度第 3 回国際人間学研究科委員会議事録	○
0806	d	campus_map	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

**基準 9 社会連携・社会貢献**

1. 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	(2) 社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	S
		(3) 地域交流・国際交流事業への参加などに取り組んでいますか。	S

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
0902	国際人間学研究科・人文学部共催「日台『異文化』の相互理解と台湾の日本研究」を開催した[0902a]。
0902	国際人間学研究科・歴史地理学科・国際人間学研究所共催シンポジウム「関中平原開発史考 考古学と歴史学からみる『人と水資源』」を開催した[0902b]。
0902	国際人間学研究所との共催で、内モンゴル大学モンゴル歴史学系赤坂恒明教授による講演会「モンゴル帝国建設に至るまでのチンギスハン」を開催した[0902c]。
0902	国際人間学研究所との共催で、Smithsonian Cultural Rescue Initiative Seminar を開催した[0902d]。
0902	国際人間学研究所主催の講演会、「米中対決の時代は終わる」（講師：日高義樹客員教授）を共催した。[0902e]
0902	研究科の所属教員・学生が、国際人間学研究所のプロジェクトに参加し、恵那市・高山市・稚内市・春日井市との交流活動や社会貢献活動を展開している[0902f]。
0902	2018 年度には、内モンゴル大学及び台湾大学との学術交流協定を結び、上記のような研究者による講演会や学会発表、学生による研究・調査活動等の国際交流を推進している[0902g][0902h]。
長所・特色 << 箇条書き >> * 先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 0902	内モンゴル大学の教授を招いての講演会開催による国際交流[0902c]。
項目 No. 0092	Smithsonian Cultural Rescue Initiative Seminar の開催による国際交流[0902d]。
課題事項 << 箇条書き >> * 改善すべき点、向上すべき点	
項目 No.	特になし。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
0902	シンポジウムや講演会活動はきわめて活発に展開しており、いずれも着実な成果を挙げている[0902a][0902b][0902c][0902d][0902e]。また、院生も参加する形で社会連携・地域連携も順調に推進している[0902f][0902g][0902h]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策 (到達目標を含む)
	特になし。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
0902	a	日台「異文化」の相互理解と台湾の日本研究 (2018年7月3日開催)	○
0902	b	シンポジウム「関中平原開発史考」(2019年1月24日開催)	○
0902	c	「モンゴル帝国建設に至るまでのチンギスハン」(2019年7月8日開催)	○
0902	d	Smithsonian Cultural Rescue Initiative Seminar (2019年9月4日開催)	○
0902	e	講演会「米中対決の時代は終わる」(2019年12月17日開催)	○
0902	f	中部大学国際人間学研究所シンポジウム「持続可能な観光」報告書(該当箇所 p. 20-29)	○
0902	g	台湾大学主催第四回東アジア日本研究者協議会国際学術大会 プログラム	○
0902	h	大学院生海外研究成果報告書	○

提出区分 … ○:本シートと一緒に提出する資料 △:現部署で保管

2020 年度（対象年度：2018～2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

**基準 11 大学独自の評価項目**

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
1120	管理運営組織および教育研究組織において、継続的に業務内容の点検を行っていますか。	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。	A

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「自己点検・評価項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
1120	専攻主任連絡会・研究科委員会について毎回開催通知・議事録作成をおこなっている[1120a][1120b][1120c]。
1120	各専攻の会議について、言語文化専攻に関しては3コースから成るため、各コースに連絡担当を置き、専攻主任が検討事項や依頼事項をメール連絡し、メール上での意見交換を行い、メール文面を保存して議事録に代えている[1120d]。歴史学・地理学専攻では歴史地理学科の学科会議とあわせて専攻会議をおこない、議事録を作成している[1120e]。国際関係学専攻では専攻会議をメール審議でおこなっている。心理学専攻では専攻会議をおこない、議事録を作成している[1120f]。
1120	専攻内の委員会等については、言語文化専攻に関しては上記コース連絡担当以外を設けていないが、今後研究科のアカデミック広報誌『GLOBAL』の編集委員会やWeb ページ委員会など、これまでともすれば個人の努力に依存していた業務内容をシステムティックに担う委員会の設置を検討する必要がある。他の3専攻では特に委員会は設けていない。
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No.	特になし。
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 1120	個人の努力に依存していた業務内容をシステムティックに担う委員会の設置。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組	*成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
------------	---

特になし。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
1120	個人の努力に依存していた業務内容をシステムティックに担う委員会の設置を研究科として検討する。

4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
1120	a	2019 年度専攻主任連絡会議事録	△
1120	b	2019 年度国際人間学研究科委員会議事録	△
1120	c	2019 年度国際人間学研究科委員会開催通知	△
1120	d	2019 年度言語文化専攻主任・コース連絡担当によるメール連絡例	○
1120	e	2019 年度歴史学・地理学専攻会議議事録	○
1120	f	2019 年度心理学専攻会議議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料 △：現部署で保管

2020 年度（対象年度：2019 年度）自己点検・評価シート

自己評価組織	国際人間学研究科
--------	----------

基準 特	学長重点項目
------	--------

1. 自己点検・評価結果 <評定>

自己評価欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが長所・特色となっている」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善すべき点がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で記入してください。

項目 No.	自己点検・評価項目	自己点検・評価の視点	自己評価
特02	修士課程・博士前期課程、博士後期課程の入学定員、収容定員を適切に管理していますか。	(1) 大学院進学を視野に入れた学部卒業生の状況を把握・分析し、共有していますか。	A
		(2) 大学院の入学定員を確保するための具体的な方策、改善の取り組みを行っていますか。	B

2. 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証を行い、「どのように（基準）」自己点検していますか。	
特02 学部生に対しては毎年大学院進学希望者対象のガイダンスを複数回おこない、本研究科の特色や魅力について周知するとともに、各専攻において情報共有に努めているが、全国的に文系の大学院は定員割れが恒常化しており、本研究科においても残念ながらその状況は変わらない[特02a、特02b]。	
特02 学術交流協定による内モンゴルからの留学生受け入れについては、入学試験も軌道に乗り、取り組みが順調に進んでいる[特02c]。	
特02 社会人については、本格的なニーズの掘り起こしに至っていない[特02c]。	
長所・特色 <箇条書き> *先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の範となるもの	
項目 No. 特02	学術交流協定による内モンゴルからの留学生受け入れ[特02d]
項目 No.	
課題事項 <箇条書き> *改善すべき点、向上すべき点	
項目 No. 特02	学部生および社会人学生の受け入れの推進[特02a]。
項目 No.	

3. 改善・向上に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）への対応も含め、改善・向上に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<改善・向上の進捗状況>

対象年度における取組 *成果の有無を問わない、前回の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
特02	内モンゴル大学との学術交流協定については、これを堅持しつつ、さらなる留学生の増加を図る努力を継続している[特02d]。

<今後の改善・向上計画>

項目 No.	課題事項と改善・向上方策（到達目標を含む）
特 02	学部生に対しては、2021 年度から開始予定の大学院「持続社会創成教育プログラム」の周知を図り、進学希望者の増加に努める[特 02a, 特 02e]。
特 02	社会人に対して中部大学におけるリカレント教育の場としての大学院をアピールし、新しいニーズの発掘に努める[特 02e]。

#### 4. 根拠資料

根拠資料 No.		根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	記号		
特 02	a	2019 年度国際人間学研究科入試説明会ポスター	○
特 02	b	2019 年度中部大学入学者数	○
特 02	c	2020 年度大学院入試状況	○
特 02	d	協定書（内モンゴル大学）	○
特 02	e	「持続社会創成教育プログラム」リーフレット	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料    △：現部署で保管